



# 第52回全国大会

## ようこそつくばへ

**18歳を市民に！  
生徒がことばを持つとき**

**つくば大会しおい**

**2014年8月9日(土)～11日(月)  
筑波学院大学**

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
9日 土			全国 フォー ラム	受 付	開 会 行 事		全体会 13:00～17:00 (13:30～基調討論)				移動・夕食・交流会 17:30～21:00		
10日 日	受 付	一般分科会 9:00～12:30		昼 食 12:30～ 13:50		一般分科会 13:50～17:20				グループ企画 (終了時間は企画に よって異なる) 17:40～			
11日 月	受 付	問題別分科会 9:00～12:00		昼 食 12:00 ～ 12:40	高生研総会 12:40 ～14:10	別 れ の 集 い	← 14:10～14:40						

**全国高校生活指導研究協議会  
つくば大会実行委員会**



## 受付・会員登録・インフォメーションボード（掲示板）について

1日目(8/9)は第2食堂、2・3日目(8/10・11)は2201教室前(2F)にあります。  
各種連絡用インフォメーションボードを用意しました。各ボードに、赤、青、黒のペンとイレイサーがあります。紙で掲示したい場合は、本部に紙があります。自由にお使い下さい。使用した備品は必ず元の場所に戻してください。日程が経過したものは管理者が消去します。

## 書籍販売について

今年の「書籍」は、参加者自身が、自分が作成した本、売りたい本、各地の高生研で作成した本などを持参し、書籍コーナーにおいて販売し、売れ残った本は持参した人が持ち帰る、というものです。売上げは持参した人にすべてお渡しします。書籍を販売したい人は、第2食堂で、書籍販売の受付をして下さい。書籍コーナー(販売場所)は**第2食堂**です。

### ＜書籍を販売したい人＞

1. **第2食堂**で書籍販売の受付をしてから、書籍コーナーに本を持って行って下さい。
2. 書籍販売の受付では、受付用紙に記入し、書籍販売用封筒に、持参者名、書籍名、持参冊数、値段(原則として百円単位の価格設定にして下さい)、販売期間(9日・10日・11日に○を付ける)、本のPR、等を記入して下さい。

※別の紙にさらにPRを書きたい人は、本部で紙をもらって書いて下さい。

3. 販売場所の第2食堂は、毎日施錠しますので、書籍は置いたままにしておいて大丈夫ですが、その日の販売が終了したら、売上金は持参者が持ち帰って下さい。書籍係は売上金の管理はしません。

### ＜書籍を購入したい人＞

1. 書籍コーナーの各書籍の所の書籍販売用封筒に代金を入れて下さい。
2. 領収書の必要な人は、書籍係に申し出て下さい。いない場合は本部に来て下さい。

### ＜書籍係の人＞

1. 担当の時間、売り場の管理をして下さい。
2. 両替金の管理をして下さい。各日の最後の担当の人は両替金を本部に持ってきて下さい。
3. 各書籍の売上金は、持参者が管理することになっています。

## お弁当について

第2食堂で「弁当券」と引き替えにお受け取り下さい。お弁当は、第2食堂で食べて下さい。

## お弁当のゴミは専用のゴミ箱へ。

空き缶と空き缶以外のゴミ(ペットボトルを含む)を分別して、大会用ゴミ箱に入れて下さい。

## 喫煙は、第2食堂の外側の「喫煙所」でお願いします。

## コピー機は学生ラウンジにあります。B5からA3までどのサイズも一枚10円です。

105枚コピーできる千円のプリペイドカードもあります。

分科会や大会運営に関わる(公的な)コピーについては、本部にある3000円のプリペイドカードを使って下さい。使用前に「使用者名簿」に記入し、使用後は必ず本部に戻して下さい。

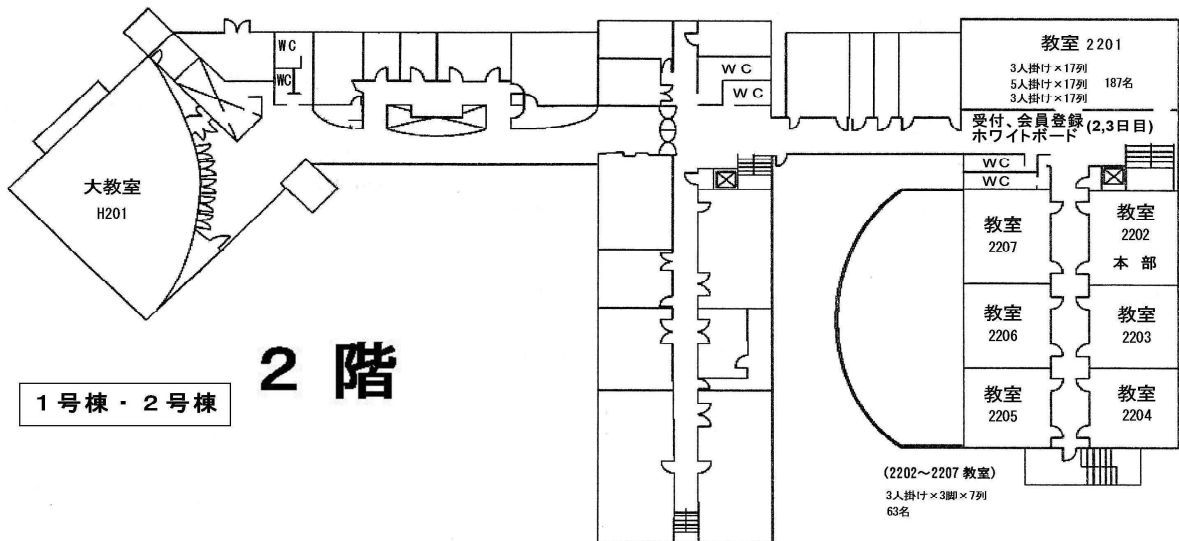
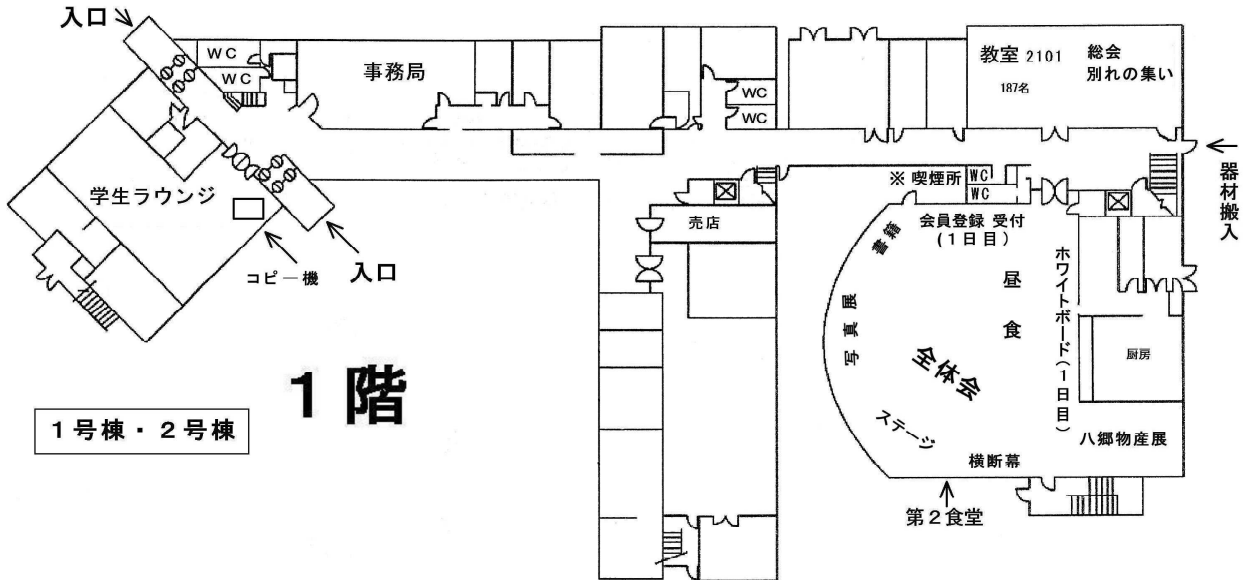
## 名札の紐が赤いのが、現地スタッフ、大会グループ員です。

分からないことがあれば、遠慮なく呼び止めて下さい。会場についての要望・意見は、現地スタッフ、大会グループ員にお伝え下さい。大学側に直接言わないで下さい。

## ＜各分科会・企画の会場一覧＞

8/9の企画		会場	8/10企画・報告者/運営	会場	8/11企画・報告者/運営	会場
全国フォーラム		2203	1. 城塚/井沼・夏原	2203	1. 伊藤・岡野/望月	2203
全体会		第2食堂	2. 塚本/絹村・吉田	2204	2. 井上大樹/柴田	2204
交流会	基調を深める	外のレストランL'esprit "Brasserie 2plats"	3. 伊藤/酒田・三木	2205	3. 久田晴生/安藤	2205
			4. 照屋/首藤・藤本	2206	4. 内田・森田/小澤	2206
			5. 森 /相良・岡村	2207	5. 小川・絹村/前田	2207
			6. 松本/西村・磯山	2205	高生研総会・別れの集い	2201
			7. 札埜/白石・久田	2206	チーフ会議	2203
			3日	本音3	2202	
			通し	書籍コーナー 齋藤さだむ写真展 「不在の光景」	第2食堂	
※詳細は4頁	発達障害の若者の就労支援活動	外の「カフェ・ベルガ」	グループ	教師になった頃何に困っていたか？教師は舐められてはいけないのか？【2203】	3日通し	八郷の食品販売・歌・踊り・昔話 (8/10昼食時)
	太鼓集団「響」と太鼓を楽しむ	第2食堂		HRづくりの『ツール』・学級通信を読み合い、語り合う会 【2204】		
	若者ワールト'カフェ (青年教師・学生のつどい)	2203	企画	ケーススタディを読み解く「あなたならこの場合どうしますか？」【第2食堂】		

## ＜会場図＞



# 8/9の交流会企画

**参加申込**：交流会に参加したい人は、インフォメーションボードにある各交流会の参加希望者名簿に**16時**までに名前を記入して下さい。「1. 基調を深める」は先着**15名**。「2. 発達障害の若者の就労支援活動」は、先着**20名**。「4. 若者ワールドカフェ」は先着**20名**ですが、若干の追加は可能です。「3. 太鼓を楽しむ」は、交流会終了後、各自で食事をとって下さい。

## 1. 基調を深める

会場→レストランL'esprit “Brasserie 2plats”（つくば駅から2分）

【担当＝酒田 孝】

基調発題を語り合うのは、レストランL'esprit “Brasserie 2plats”。パリの街角にある食堂そのままのブラッスリー ドゥ・プラで。2platsは、直訳すると『2皿』。前菜を一皿と主菜を一皿で表現する気軽に楽しめるつくばスタイルのフレンチレストランです。一人**2600円**です。おいしい食事をいただきながら、全体会での基調討論の続きを熱く語り合ひましょう。**18時**開会です。

## 2. 発達障害の若者の就労支援活動

会場→カフェ・ベルガ（筑波学院大学から遊歩道を歩いて約15分）

【担当＝小柴架奈子、穂積妙子】

つくばカピオホールの敷地内にある、総ガラス張りの素敵なカフェが「カフェ・ベルガ」です。詳しくはしおり6頁の『常陽リビング』の記事をご覧ください。そのお洒落な外観からは意外ですが、ここは就労支援事業A型を実施している施設でもあります。若者の就労支援の現場を見て、責任者の吉田美恵さんから事業の概要を話していただきます。また、八郷で農業分野での若者支援をされている佐藤ゆりさんのお話も伺います。夕食付なので、参加費**2000円**（軽食+ソフトドリンク）です。**18時**開会です。

## 3. 太鼓集団「響」と太鼓を楽しむ

会場→第2食堂

【担当＝早見雅彦、坂田尚之】

太鼓集団「響」は、埼玉県立浦和商业高校定時制の太鼓部を母体とする太鼓集団です。復興支援先の東北からつくば大会に駆けつけてくれるのは、イギリス公演でも中心に活躍した飯島学さんです。「響」は事務所を桶川市に、稽古場（響スタジオ）を本庄市児玉町飯倉に構え活動しています。2014年事務所のある桶川に響プロデュース、若者たちの居場所HIBIKICafe（ゆったりしていてコーヒーがおいしい）をオープン、映画「月明かりの下で」の夜間定時制高校で、若者の居場所の必要性和意義を発信しています。映画では、2002年の入学から2006年の卒業までの4年間、そしてその後へと、生徒一人ひとりに寄り添った貴重な映像が、テレビ放映を経て、ドキュメンタリー映画となりました。

開会行事での演奏に続いて、交流会では「響」の指導者のもと参加者が太鼓をたたき交流を深めます。プロの凄さと太鼓の楽しさが味わえる貴重な機会です。ぜひご参加ください。**17時30分**開会です。

## 4. 若者ワールドカフェ（青年教師・学生のつどい）

会場→2203

【担当＝久田晴生】

初めて会った同士でも気がねなく話ができ、かつみんなの意見も聞けるといいですね。つくば大会での「青年教師・学生のつどい交流会」は、ワールド・カフェでやりましょう。「何？それ」と思う皆さん、ぜひ参加してみてください。交流&話し合いのファシリテーターとして、つくば市民大学の徳田太郎さんをお願いしています。ワーク・ショップなどの運営に興味関心がある方の参加も歓迎です。参加費**300円**（軽食+飲み物）で食事をしながら、楽しく語り合ひましょう。**17時30分**開会です。

# 8/10のグループ企画

**参加申込**：「1. 教師になったころ、何に困っていたか？ 教師は舐められてはいけないのか？」「3. ケーススタディを読み解く『あなたならこの場合どうしますか？』」に参加したい人は、インフォメーションボードにある参加希望者名簿に**16時**までに名前を記入してください。どちらも先着**20名**ですが、若干の追加は可能です。「2. HRづくりの『ツール』・学級通信を読み合い、語り合う会」については、参加申込の必要はありません。直接会場に行ってください。

## 1. 教師になったころ、何に困っていたか？

### 教師は舐められてはいけないのか？

(大会グループ主催)

会場→2203

【担当=久田晴生】

「生徒に舐められるな」「生徒をしめる」「生徒を仕切る」「黄金の一週間」などに象徴されるように、教師とりわけ担任が最も重視すべき姿勢・行動指針は生徒を権力的にコントロールすることにあるという風潮（時には学校の指導方針）が現場を席卷してはいないでしょうか。そして、それを無批判のまま受け入れ邁進する人、疑問を持ちながらも従う人、そうではない指導が必要と考えるもののどうしたいか分からず苦悩する人……、とりわけ良心的な若い先生方は困っているのではないでしょうか。そこで、自分自身、教師になった頃、何に困っていたか（あるいは今困っていること）、また学生の方は教師になった時、何が不安かを出し合い、「管理」と「指導」の問題を、改めて考えたいと思います。またこのことが、これからの高生研をつくっていく上で、どう関わるかについても考えたいと思います。参加費**300円**（軽食+飲み物）で食事をしながら、日ごろ感じていることを自由に思いっきり語り合ひましょう。**17時40分**開会です。

## 2. HRづくりの『ツール』・学級通信を読み合い、語り合う会

(編集/通信グループ主催)

会場→2204

【担当=絹村俊明、井沼淳一郎】

「学級通信」は担任が発信する、生徒・保護者向けの「メディアツール」とも言えます。同時に、学級通信を読むと、その書き手である担任の「指導性」のようなものを読み取ることができます。生徒や保護者に担任が伝えたいことをどう効果的に伝えるか、学級通信を使ってどのようなHRづくりをしようとしているのか、実際に発行された学級通信を読みながら、参加者みんなで語り合ひます。学級通信の持ち込み大歓迎！ 皆様のご参加をお待ちしています。**17時40分**開会です。

## 3. あなたなら、この場合どうします？

(理論・実践研究グループ主催)

会場→第2食堂

【担当=相良武紀】

つくばスタイルのパーティセットを取り寄せ、自由なテーマで語り合うワールドカフェ形式交流会です。日々高校生の成長を願って実践研究されている皆さん、生徒達に学校秩序への適応を求める生徒指導とは「違う」実践研究をされている皆さん、お互いが培っている教育観や指導観を、抽象的な議論ではなく「実践論」としてワイワイガヤガヤ交流できればという主旨の交流会です。当日は、高校の教育現場ではよくある場面を設定し、「自分がその場の教員であったならば、こう関わるだろう」というアイデアを共有し合いながら、それぞれの関わり方とそれを裏付ける考え方について、楽しく学び合えればと思います。具体的な場面は（予測できぬ日常と同様）当日にお伝えしますが、学級や生徒会指導など「生徒主体の自治活動へのあなたの関わり」が問いとなります。是非、ご参加下さい！岡野八代さんも参加です。持ち込み大歓迎。3年もの手作り梅酒をもって来る人も。参加費は、アルコールありが**2800円**、アルコールなしが**2400円**です。**17時40分**開会です。

## <理解し・共に働く社会に>

発達障害者の就労をサポートする

### 友遊舎 カフェ・ベルガ

『常陽リビング』2014年7月5日号より

障害者の社会参加を応援しようと、障害者の親や関係者が会社を立ち上げて1996年に開店したカフェ・ベルガ(つくば市竹園)では、2012年9月に茨城県指定障害者福祉サービス事業所として発達障害のある人の就労支援を開始。カフェで社会訓練をしたり、サポートオフィスでスキルトレーニングを行う一方、企業には発達障害への理解と雇用を働きかけるなど「特性を生かした就労ができるよう」奮闘している。



カフェ・ベルガの厨房で社会研修中のBさん カフェ・ベルガの外観

カフェ・ベルガを運営する有限会社友遊舎(吉田美恵代表)は、障害者の親たちによるつくば市福祉等連絡協議会の有志が設立し、つくばカピオの開館に合わせて隣にオープンした。

サポートオフィスでの取り組みは、平成24年度茨城県新しい公共支援事業「提案型モデル事業」の一環としてつくば発達障害就労支援協議会(ユニベルシタスつくば、NPO法人艦づな会、(株)Kaizen、茨城県保健福祉部障害福祉課、つくば市保健福祉部障害福祉課)が実施主体となった「発達障害のある若年層への就労支援モデル事業」を引き継いだもの。

つくば市天久保に事務所を構え、おおむね20歳～35歳の発達障害者および発達障害の傾向がある人で障害福祉サービス受給者証を取得している人(ない人の相談可)を対象に、さまざまな訓練を行う。

主な内容は

▽ビジネススキル・トレーニング

(パソコンの基礎や電話対応などビジネスの基礎力を学ぶ)

▽ワークサンプル・トレーニング

(さまざまな職種の疑似体験)

▽就職セミナー

(就職活動プロセスの理解から履歴書の書き方まで)

▽キャリアカウンセリングなど。

訓練期間は最長2年間。

「その間に、一人でも多くの人を社会に送り出したい」と願う指導員たち。理解不足による企業側の壁もあるが「発達障害の能力の偏りを理解してもらい、得意なところを生かせる仕事はたくさんあると思います」と代表の吉田さん。

◇ ◇ ◇

発達障害者支援法が定める発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、その他これに類似する脳機能の障害。中にはそれらが重なり合うこともあって状態はさまざまだが、見た目は健常者と変わらないため理解されにくく、見過ごされてうつなどの精神障害や不登校、ひきこもりなどの二次障害を発症することもある。

現在、訓練中のAさん(31歳)は、大学に入学した18歳の時に発達障害という言葉に出会い、しばらく後に発達障害と診断された。自分も親も初めて知る結果だったが、自身の胸の内では長年の違和感に答えが見つかった気がした。

「例えば時間の管理が苦手な朝起きられないとか、学習意欲の減退、自分のことばかり話す、人が笑っている理由が分からないなどちょっとしたズレです」とAさん。

次第に授業についていけなくなり、卒業を目指すものの8年間通った末にやむなく退学。それでも中学時代から磨いてきたパソコンスキルは優れ、自分に合う仕事を見つきたいと訓練に励んでいる。

また、カフェ・ベルガの厨房で社会研修しているBさん(27)は以前、飲食店で働いていたが別の店に異動になって多忙を極め、プレッシャーから仕事を続けられなくなった。しばらく休んでいたものの働く意欲が湧き、カフェで実習を積みながら社会復帰を目指している。

Bさんには「自分から話しかけるのが苦手」という特性があり、スタッフから積極的に声掛けをするなど具体的に支援する。



月1回のケース会議で話し合う指導員たち

そうした一人ひとりの特性と問題を見極め、能力を伸ばしていくために指導員(計10人)は毎月1回ケース会議を開いている。

仕事上の注意や言葉掛け、タイミング、褒め方、普段の観察など情報交換は細部にわたり、「ここでの目標は自己理解、自己変容、問題解決能力です。そのためにどのようにフィードバックするかにかかっている」と意思統一。

そんな地道な支援が実り、過日も地域のスーパーに一人就職。先輩に続こうと実習や体験を希望する訓練生が増えている。

「誰もが働きやすい職場や環境があれば彼らの能力が発揮されます。社会に貢献できる人材が活用されないのはもったいない。まずは見学や体験で彼らを受け入れてほしい」と吉田さん。

# アンデスの音色に魅せられて

『常陽リビング』2014年5月24日号より



## ケーナ奏者 渡辺大輔(わたなべ だいすけ)さん

南米ペルーやボリビア発祥の民族楽器「ケーナ」に魅せられた渡辺大輔さん(つくば市、33歳)は、2013年春8年間務めた公務員を辞めプロ奏者としてスタートを切った。日々「究極の音色」を求めながら、伝統音楽のほか幅広いジャンルの音楽に取り組み、源流は紀元前にまでさかのぼるというケーナの可能性を引き出そうと活動。5月31日(土)には「音楽世界紀行」と題したコンサートをかすみがうら市とつくば市で開く。

朗々とした音色は、遙か遠くまで響き渡る。「丸い息やとがった息、板状の息をどんな角度で当てるとより良い音になるか、日々試行錯誤しています」

楽譜がなく、先人の演奏やアンデスに伝わる歌を階名や奏者の「耳」で伝えてきたとされるケーナは音程によって長さもさまざま。表裏7つの穴を指で押さえて音を操るが、大事なのは息の吹き込み方。練習では一音に3時間以上かけ音を磨き上げることもしばしば。

尺八とフルートとオカリナを足して3で割ったような音と説明されることもあるが「ケーナにはそのどれにも当てはまらない、美しい音があるんです」。

中学でXJAPANにはまりエレキギターを手にしたが、ある程度のレベルに達すると限界を感じた。そんなロック少年に運命の出会いが訪れたのは筑波大学入試の帰り道。まずまずの出来に満足しながら大学構内のバス停に立っていると、付近の茂みから聞こえてきた音に体が震えた。

南米の伝統曲「リヤキルナ」のメロディーラインに、かつて夢中になったXJAPANや久石譲の音楽に通ずるものを感じた。

入学後にその演奏者を探し出してフォルクローレ愛好会に入り、毎日のように夕方から翌朝まで練習に没頭しめきめと上達。

四六時中ケーナと一緒にいたが、3年生の時スランプに陥った。限りなく完璧に近い音が出せた前年冬の演奏会の成功体験がどうしても忘れられなかった。

そんなある日、ある漫画で宮本武蔵が力任せに太刀を振り回す描写を目にした。肩の力を抜き、再び武蔵が刀を振ると太刀はうなりを上げた。

それは、良い音を出そうと躍起になり周囲に自分の能力を見せびらかそうとしていた自分を思い起こさせ、無駄な自尊心は音に微妙な雑味を生み出すことを気付かせてくれた。

やがて就職活動や卒業論文のため半年ほどケーナから遠ざかると、無性に吹きたい気持ちがこみ上げ「ケーナが本当に好きなんだ」と再認識した。

頭の片隅で「いつかプロに」と思っていたものの、国内のプロ奏者はごくわずか。

卒業後は紆余曲折ありながらも25歳で土浦市役所に就職。環境や障害者福祉の分野を担当し、市のイベントや施設のクリスマス会などで演奏を披露した。

また、フォルクローレの国内トップを走るグループ「マヤ」にも認められ、コンサートやツアーに参加。そんな日々でもプロへの夢は断ち難かった。

かつては両親と進路を巡って大喧嘩になるなど「家族が賛成してくれる夢を何度も見ましたよ。うれし泣きして目が覚め、『ああ、また夢か』と」。

ところが2012年秋、突然母親から「やりたいことをやりなさい」と逆に背中を押された。職場でも遅咲きの挑戦を祝福してくれた。



## 守谷でのライブの様子

現在はライブ活動や個人レッスンのほか、公民館講座の講師や自身のセルフプロデュースなど多忙な日々が続く。

今後はフォルクローレという音楽の枠を超え、ケーナが生きる音楽ならばアイリッシュや北欧のメロディーなどどんなものにも挑戦したい。

そのためにも大学2年のコンサート以来ほとんど出せていない「あの音」を常に出せるようにしたい。

ケーナの長い歴史の中で誰も出したことのない「究極の音」を確立することが、さまざまなプロが技術を競う中で自分に残された最後の領域だと思っている。

同時に、18歳の運命の日に聞いたあの感動を多くの人に伝えたい。

原点である「リヤキルナ(人々の悲しみ)」に込められた情感を風に乗せれば、アンデスの響きは山を越えて谷を越え、聴く人の胸に届けられる。

ライブの問い合わせ:090(9108)8357/渡辺さん

# 現地企画のご案内

## 齋藤さだむ写真展「不在の光景」

大会期間中を通して、第2食堂に展示しています

つくば市在住のフリー・フォトグラファー齋藤さだむ氏が2011年被災地福島で撮影した写真の展示を行います。この写真群は2012年4月にいわき市美術館で展示された作品です。齋藤氏は筑波大学芸術学系技官を退職後、フリーの写真家として独立、個展やグループ展への出品も多数あります。また今回、齋藤氏の写真と福島在住の詩人若松丈太郎氏、アーサー・ビナード氏がコラボレーションして作った単行本『ひとのあかし』（発行・清流出版）の展示、即売も行う予定です。

## 八郷の食品販売・歌・踊り・昔話

2日目8／10の昼食時に、第2食堂で行います

八郷（やさと）とは、茨城県石岡市の中にある地域のことで、学園都市から筑波山を挟んで反対側に位置しています。筑波山のふもとにある八郷には、美しい農村が広がり、米やさまざまな野菜、そして季節の果物が栽培されています。もともと八郷で暮らしていた人々の他に、他県から移住した人々が住んでいます。つくば大会での食品販売をお願いした佐藤ゆりさんは、約10年、障害をもっている人ももっていない人も共に地域で生活し、働くということで活動している市民団体「わっぱの会」（名古屋）で生活支援の仕事をされていました。その後、2005年スワラジ学園で半年、あとの半年は鹿苑農場で研修生として、1年間百姓暮らしを学ばれました。2006年10月から石岡市（旧八郷町）に住み、百姓暮らしをしています。八郷で百姓暮らしをしている佐藤さん夫婦や八七技耕夢展さんがいらして八郷の農産物を使った加工品や食べ物の販売を行い、手作りシロップをかけたかき氷などが食べられます。



都道府県名：

お名前：